



2013年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2012年10月
大阪ガス株式会社

I. 13.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今から、2013年3月期 第2四半期決算と通期見通しについて、ご説明させていただきます。

13.3期第2四半期決算のポイント I

対前年同期比較

■ 概況

連結売上高

LNG価格の上昇に伴い、
原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したほか、
電力事業売上が増加したことなどから、
前年比12.6%(702億円)増収の6,298億円。

連結営業利益

時期ずれ差損の縮小(283億円→73億円)により、
ガス粗利益が増加したほか、
電力事業利益や連結子会社利益が増加したことなどから、
前年比137.7%(260億円)増益の448億円。

■ ガス販売量

家庭用

水温が前年より高く推移し、給湯需要が減少したことなどから、
前年比2.5%(21百万m³)減少の831百万m³。

商・公・医療用

お客さま先での省エネルギー推進などにより、
前年比4.0%(32百万m³)減少の777百万m³。

工業用

お客さま設備の稼働減少などにより、
前年比0.3%(7百万m³)減少の2,122百万m³。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

2013年3月期 第2四半期は、増収・増益の決算となりました。

連結売上高は、LNG価格の上昇に伴い、
原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したほか、
電力事業売上が増加したことなどから、
前年と比べて12.6%、702億円の増収となり、
過去最高の6,298億円となりました。

連結営業利益は、
時期ずれ差損が209億円縮小し、ガス粗利益が増加したほか、
電力事業利益や連結子会社利益が増加したことなどから、
260億円の増益となり、前年の約2.4倍にあたる448億円となりました。

ガス販売量について、家庭用は、
水温が前年より高く推移し、給湯需要が減少したことなどから、
前年を2.5%下回る、8億3,100万m³となりました。

商業用・公用・医療用は、お客さまの省エネルギー推進などにより、
前年を4%下回る、7億7,700万m³となりました。

工業用は、お客さま設備の稼働減少などにより、
前年を0.3%下回る、21億2,200万m³となりました。

13.3期第2四半期決算のポイント II

対計画比較

■ 概況

連結売上高	器具販売売上や電力事業売上が増加したことなどから、 計画を2.4%(148億円)上回る6,298億円。
連結営業利益	電力事業利益や連結子会社利益が増加したほか、 諸経費が減少したことなどから、 計画を30.1%(103億円)上回る448億円。
■ ガス販売量	
家庭用	ほぼ 計画並みの831百万m³ 。
商・公・医療用	6月の気温が低く推移した影響などにより、 計画を1.3%(10百万m³)下回る777百万m³ 。
工業用	お客さま設備の稼働減少などにより、 計画を1.3%(27百万m³)下回る2,122百万m³ 。
■ 投資など	
新規事業拡大投資	米国テキサス州シェールガス・オイル開発プロジェクトや、 カナダ・オンタリオ州太陽光発電事業への参画を意思決定。 上半期の 投資実施額は計424億円 (年間計画額の35%)。
その他	米国フリーポート社と天然ガス液化加工契約を締結。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

4

続きまして、2013年3月期 第2四半期の決算を、計画との対比でご説明します。

連結売上高は、

業務用空調機器や家庭用燃料電池などの器具販売売上が増加したほか、電力事業売上が増加したことなどから、計画を2.4%、金額にして148億円上回りました。

連結営業利益は、電力事業利益、海外の持分法投資利益、関係会社利益が増加したほか、諸経費が減少したことなどから、計画を30.1%、金額にして103億円上回りました。

ガス販売量について、家庭用は、ほぼ計画並みとなりましたが、商業用・公用・医療用は、6月の気温が低く推移した影響などにより、計画を1.3%下回りました。

また、工業用についても、お客さま設備の稼働減少などにより、計画を1.3%下回っています。

新規事業拡大投資は、

アメリカ・テキサス州におけるシェールガス・オイル開発プロジェクトや、カナダ・オンタリオ州における太陽光発電事業などへの参画を意思決定しました。この上半期の投資実施額は424億円で、年間計画額の約35%の進捗となっています。

このほか、投資にはあたりませんが、シェールガスなど、アメリカの天然ガスを自ら調達するための取り組みとして、中部電力さまと共同で、天然ガス液化加工契約を締結しました。これにより、フリーポートLNG基地における、年間440万トンの天然ガス液化能力の確保を目指します。

以上、ガス事業で、販売量が計画を下回る状況ではありましたが、電力事業や連結子会社などの貢献により、売上・利益ともに計画を上回っており、事業ポートフォリオの効果が現れた決算になったと評価しています。

13.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 13.3期 2Q	B. 12.3期 2Q	前年差	前年比	13.3期2Q 計画値	計画比
個 別	お客さま数(千件)	7,057	7,021	+36	+0.5%	7,053	+0.1%
	新設工事件数(千件)	37	32	+5	+16.2%	36	+3.4%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	23.8	24.5	-0.7	-2.8%	23.9	-0.4%
	家庭用	831	853	-21	-2.5%	834	-0.3%
	商・公・医療用	777	809	-32	-4.0%	787	-1.3%
	工業用	2,122	2,129	-7	-0.3%	2,150	-1.3%
	業務用計	2,899	2,939	-39	-1.3%	2,936	-1.3%
	他ガス事業者向け	222	233	-11	-4.6%	228	-2.4%
	(うち大口供給)	(2,479)	(2,510)	(-31)	(-1.2%)	(2,520)	(-1.6%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	3,953	4,024	-71	-1.8%	3,998	-1.1%
連結ガス販売量	3,970	4,041	-71	-1.8%	4,015	-1.1%	

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

5

ただ今ご説明しました、ガス販売実績を、こちらにまとめております。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を1.8%下回り、計画を1.1%下回る、39億5,300万m³となりました。

これまで比較的堅調に推移してきた工業用ガス販売にも翳りが出てきており、景況の不透明感が高まりつつある実績となりました。

13.3期第2四半期実績 I

連結:億円	A. 13.3期2Q		B. 12.3期2Q		()内は連単倍率		13.3期2Q 計画値	計画比
					前年差	前年比		
売上高	(1.24)	6,298	(1.26)	5,596	+702	+12.6%	6,150	+2.4%
営業利益	(1.59)	448	(5.98)	188	+260	+137.7%	345	+30.1%
経常利益	(1.43)	483	(2.82)	194	+288	+148.2%	335	+44.2%
四半期純利益	(1.32)	308	(2.12)	110	+197	+178.6%	210	+47.1%
SVA		148		-56	+204	---	43	+238%
		A. 13.3期2Q	B. 12.3期2Q		前年差		13.3期2Q 計画値	計画差
連結ガス販売量	百万m ³	3,970	4,041	-71		4,015	-45	
時期ずれ差損益	億円	-73	-283	+209		-66	-7	
原油価格	\$/bbl	114.0	113.9	0		115.0	-1.0	
為替レート	円/\$	79.4	79.8	-0.4		80.0	-0.6	
連結子会社数		129	131	-2		---	---	

13.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC Design Your Energy 夢ある明日を

こちらには、2013年3月期 第2四半期の決算数値を、
まとめておりますので、ご確認下さい。

13.3期第2四半期実績 II

連結:億円	A. 13.3期 2Q末	12.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	14,647	14,294	14,757	-109	
自己資本	7,002	6,649	6,845	+156	
有利子負債	5,502	5,570	5,413	+88	CPの増加など
在籍人員	19,935	19,939	19,818	+117	
自己資本比率	47.8%	46.5%	46.4%	+1.4	
D/E比率	0.79	0.84	0.79	-0.01	
	A. 13.3期2Q	B. 12.3期2Q	A-B		備考
設備投資	563	331	+232		豪州LNGプロジェクト、 米国シェールガス・オイル開発プロジェクト等
減価償却費	409	464	-55		特別償却が前年で終了
フリーキャッシュフロー	50	-125	+176		
ROA	2.1%	0.8%	+1.3		
ROE	4.5%	1.7%	+2.8		
EPS (円/株)	14.8	5.3	+9.5		
BPS (円/株)	336.3	319.3	+17.0		

Design Your Energy 夢ある明日を

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。 

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

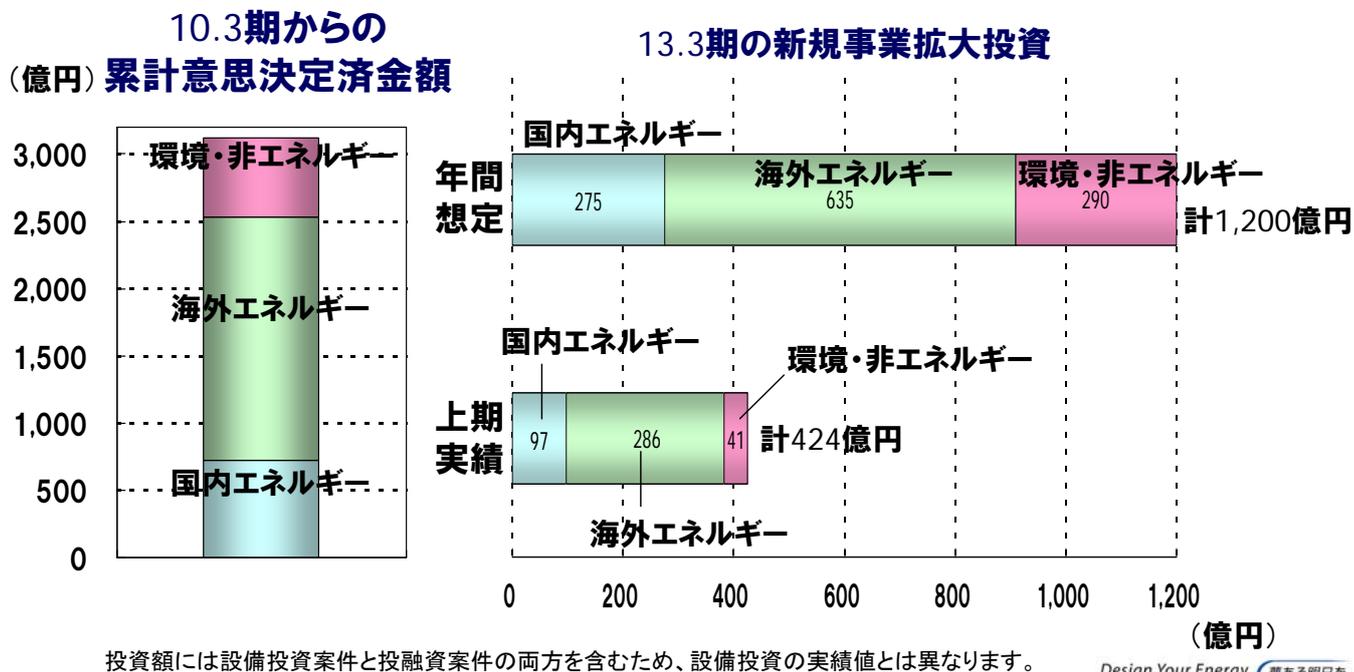
設備投資は、オーストラリアの
ゴーゴン・LNGプロジェクトやイクシス・LNGプロジェクト、
アメリカ・テキサス州のシェールガス・オイル開発プロジェクトへの投資を
実施したことなどから、前年を232億円上回る563億円となりました。

減価償却費は、前年で、残存簿価5%到達資産の
5年均等償却が終了したことにより、
前年を55億円下回る409億円となりました。

ROA・ROEは、前年を大きく上回り、それぞれ2.1%、4.5%となりました。

13.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- 米国テキサス州シェールガス・オイル開発プロジェクトや、カナダ・オンタリオ州太陽光発電事業への参画を意思決定。
- 10.3期からの累計意思決定済金額は**3,120億円**(10.3期～14.3期計画額の78%)。



新規事業拡大投資計画の進捗について、ご説明します。

先にご説明しました通り、新たにアメリカ・テキサス州でのシェールガス・オイル開発プロジェクトや、カナダ・オンタリオ州での太陽光発電事業への参画を意思決定しました。

この結果、中長期経営計画初年度から3年半での累計意思決定金額は3,120億円となっており、これは、2014年3月期までの5年間の投資計画額の78%に相当していることから、投資は引き続き順調に進捗していると考えています。

年度計画との対比で見ますと、1,200億円の年間計画に対して、上半期は、国内での基幹導管建設投資や、アメリカのシェールガス・オイル開発プロジェクト、オーストラリアのLNGプロジェクトへの投資などを中心に、424億円の投資を実施いたしました。

引き続き、計画の達成に向けて、投資案件の発掘を進めてまいります。

13.3期見通し 修正のポイント

		今回見通し	当初見通し	差	備考
下期の 前提諸元	原油価格 \$/bbl	115	115	0	
	為替レート 円/\$	80	80	0	
個別ガス 販売量 (45MJ/m ³)	家庭用	(1,398)	(1,398)	(0)	下期は 当初見通しの通り
	業務用 その他	2,229	2,232	-3	
収支 (億円)		(3,157)	(3,226)	(-69)	お客さま設備の 稼働減少を織り込み
		6,278	6,390	-112	
	売上	13,730	13,630	+100	器具販売売上・ 電力事業売上・ 連結子会社売上増加
	ガス粗利	3,315	3,335	-20	ガス販売量減少
	営雑附帯利益	314	294	+20	電力利益増加
	労務費・諸経費・ 減価償却費	3,034	3,054	-20	労務費(退職手当)減少
	連結子会社利益	345	325	+20	持分投資利益増加など
営業利益	940	900	+40		
経常利益	950	900	+50		

(注)ガス販売量の上段()内は、13.3期下期の数値(内数)。

9

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

続いて、10月1日に修正を行いました、
2013年3月期通期の見通しについて、ご説明します。

まず、下期の前提諸元については、当初見通しと同じく、
原油価格を1バレル115ドル、為替レートを1ドル80円としています。

ガス販売量は、下期の家庭用を当初見通しの通りとする一方で、
業務用その他では、お客さま設備の稼働減少の影響が下期も続くとして、
当初見通しを1億1,200万m³下回ると想定しています。

売上については、器具販売売上、電力事業売上、連結子会社売上が
増加することなどから、当初見通しを100億円上回ると想定しています。

営業利益については、
ガス販売量減少に伴うガス粗利益の減少はあるものの、
電力事業を中心とした営雑・附帯事業利益の増加や、
年金数理差異償却の縮小による労務費の減少、
持分法投資利益の増加などにより、
当初見通しを40億円上回ると想定しています。

なお、経常利益についても、
当初見通しを50億円上回ると想定しています。

13.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 13.3期 見通し	B. 12.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,078	7,045	+32	+0.5%
	新設工事件数(千件)	82	81	+1	+0.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	31.9	32.6	-0.7	-2.1%
	家庭用	2,229	2,271	-42	-1.9%
	商・公・医療用	1,497	1,575	-77	-4.9%
	工業用	4,322	4,355	-34	-0.8%
	業務用計	5,819	5,930	-111	-1.9%
	他ガス事業者向け	459	480	-21	-4.4%
	(うち大口供給)	(4,982)	(5,062)	(-80)	(-1.6%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,507	8,681	-174	-2.0%
連結ガス販売量	8,538	8,711	-174	-2.0%	

こちらには、通期のガス販売量の見通しを、前年と比較して整理しています。

家庭用は、前年を1.9%下回る22億2,900万m³、
 商業用・公用・医療用は、前年を4.9%下回る14億9,700万m³、
 工業用は、前年を0.8%下回る43億2,200万m³で、
 大阪ガス個別のガス販売量は合計で、
 前年を2%下回る85億700万m³となる見通しです。

13.3期見通し I

連結:億円	()内は連単倍率				
	A. 13.3期 見通し	B. 12.3期 実績	A-B	A-B/B (%)	
売上高	(1.25) 13,730	(1.25) 12,947	+782	+6.0%	
営業利益	(1.58) 940	(1.96) 772	+167	+21.6%	
経常利益	(1.44) 950	(1.84) 756	+193	+25.5%	
当期純利益	(1.34) 610	(1.76) 452	+157	+34.9%	
SVA	277	119	+158	+132.2%	
連結ガス販売量	百万m ³	8,538	8,711	-174	
時期ずれ差損益	億円	-29	-307	+277	
原油価格	\$/bbl	114.5	114.2	+0.3	
為替レート	円/\$	79.7	79.1	+0.6	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

11

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

通期の収支見通しを、前年と比較して整理しましたが、こちらです。

売上高は、前年を6%上回る1兆3,730億円、利益については、時期ずれ差損が277億円縮小する影響が大きく、営業利益が、前年を21.6%上回る940億円、経常利益が、前年を25.5%上回る950億円となる見通しです。

13.3期見通し II

連結:億円	A. 13.3末見通し	B. 12.3末実績	A-B
総資産	15,755	14,757	+997
自己資本	7,253	6,845	+407
有利子負債	5,840	5,413	+426
在籍人員	19,992	19,818	+174
自己資本比率	46.0%	46.4%	-0.4
D/E比率	0.81	0.79	+0.01
	A. 13.3期見通し	B. 12.3期実績	A-B
設備投資	1,011	871	+139
減価償却費	848	936	-87
フリーキャッシュフロー	841	790	+50
ROA	4.0%	3.1%	+0.9
ROE	8.7%	6.7%	+2.0
EPS (円/株)	29.3	21.7	+7.6
BPS (円/株)	348.3	328.8	+19.6

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

12

 OSAKA GAS

最後になりますが、資産・負債項目や、主な財務指標の見通しを、こちらに、まとめておりますので、ご確認下さい。

通期のROA・ROEは、それぞれ、4%、8.7%となる見通しです。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

お手元には、ご参考資料として、さらに詳細な、決算の差異分析資料や、セグメント別内訳などの資料を付けておりますので、あわせてご覧下さい。

ありがとうございました。

II. 参考資料

13.3期トピックス

■ カナダ・オンタリオ州太陽光発電事業への参画(6月)

- 発電容量:9ヶ所 計10万kW
- 出資比率:大阪ガス44.95%、三菱商事44.95%、シャープ10.1%



■ 国内大規模太陽光発電所の建設(6月)

- 国内3ヶ所 発電容量計3,500kW

■ 米国テキサス州シェールガス・オイル開発プロジェクトへの参画(6月)

- 参加者: Cabot社65%、大阪ガス35%
- 産出資源: 天然ガス、軽質原油(コンデンセート)、Natural Gas Liquids

■ 米国フリーポート社との天然ガス液化加工契約の締結(7月)

- 大阪ガスと中部電力は、フリーポートLNG基地における年間440万トンの天然ガス液化能力の確保を目指す。



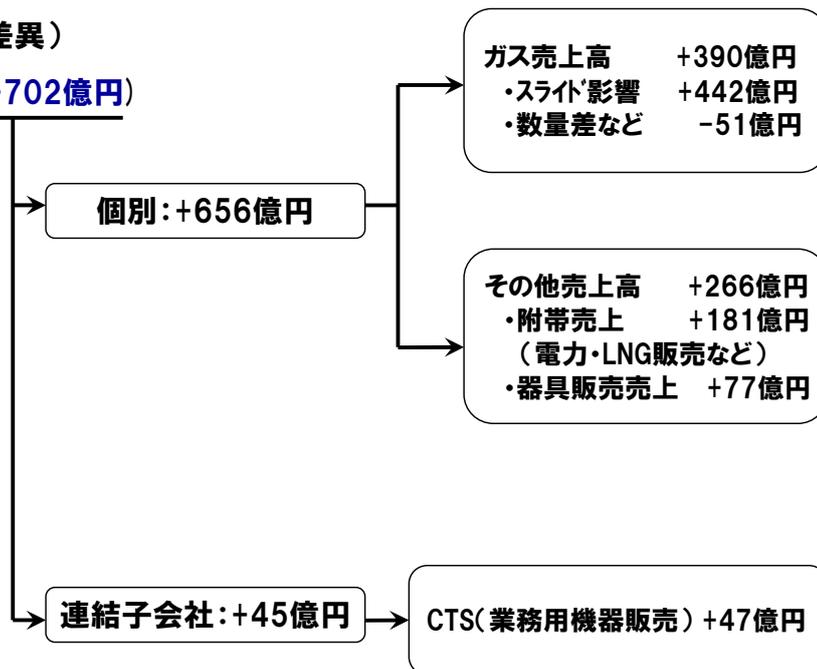
Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

13.3期第2四半期の売上高差異(対前年同期)

12.3期2Q → 13.3期2Q (差異)

5,596億円 6,298億円 (+702億円)



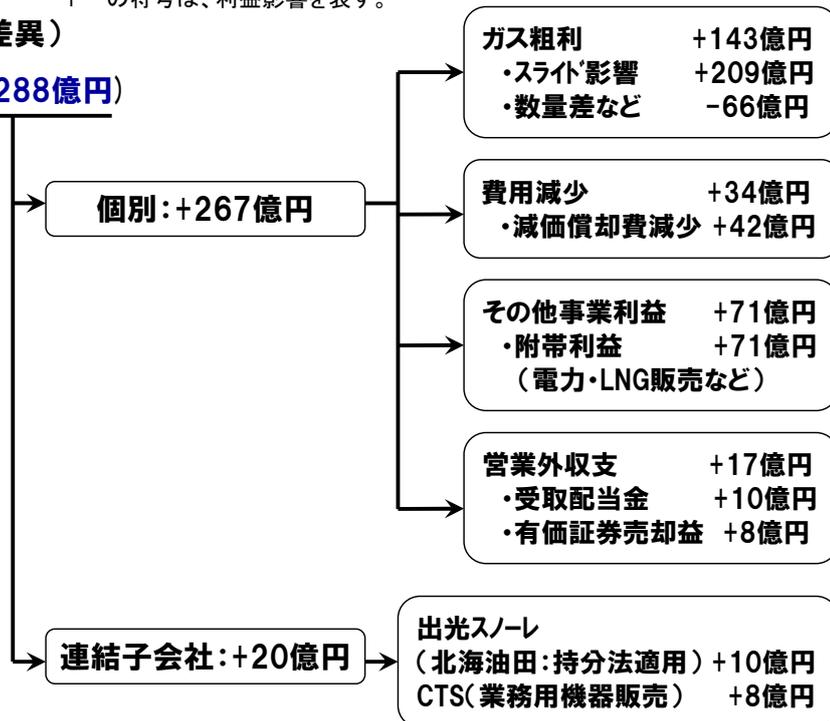
(*)CTS…クリエイティブテクノソリューション

13.3期第2四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

12.3期2Q → 13.3期2Q (差異)

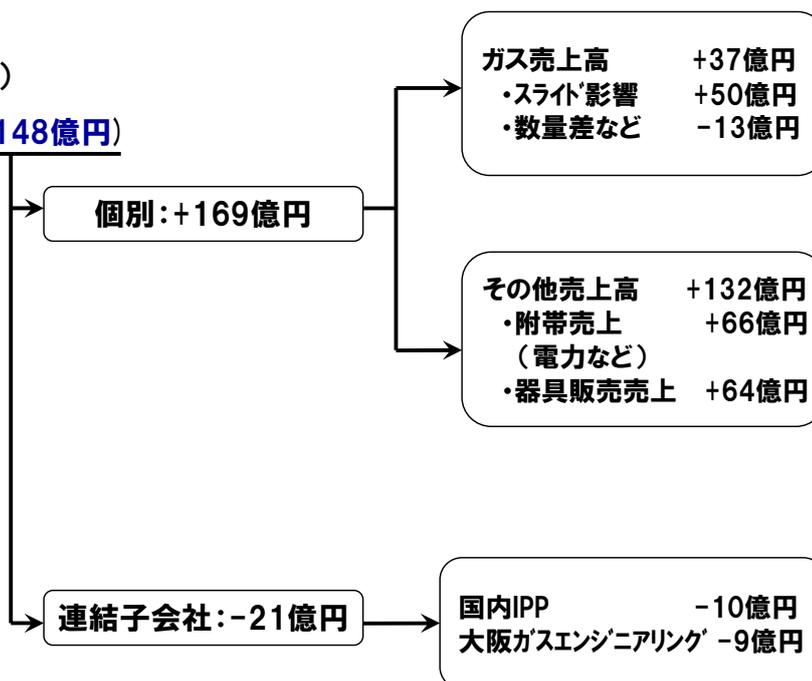
194億円 483億円 (+288億円)



(*) CTS…クリエイティブテクノソリューション

13.3期第2四半期の売上高差異(対計画)

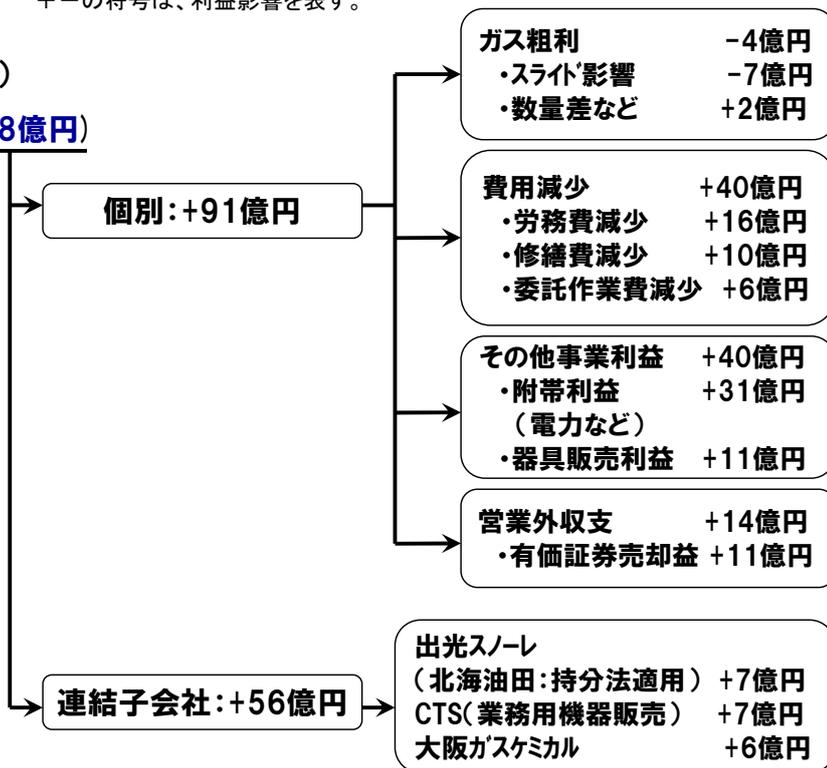
13.3期 13.3期
 2Q計画 → 2Q実績(差異)
 6,150億円 6,298億円 (+148億円)



13.3期第2四半期の経常利益差異(対計画)

+-の符号は、利益影響を表す。

13.3期 13.3期
 2Q計画 → 2Q実績(差異)
 335億円 483億円 (+148億円)



セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	13.3期 2Q	12.3期 2Q	13.3期 2Q	12.3期 2Q	
ガス	4,713	4,182	146	-42	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	989	821	201	128	売上:電力事業売上・LNG販売増 利益:電力事業利益増 電力事業利益 (*) 12.3 2Q 93億円 13.3 2Q 151億円
海外エネルギー	52	51	46	27	持分法投資利益増 (北海油田・UAE IPP・スペインIPP)
環境・非エネルギー	843	861	77	82	売上:不動産事業売上減など 利益:ケミカル事業利益減など
消去または全社	-300	-320	13	11	
連結	6,298	5,596	485	208	

(*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益 (*) 電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示。

Design Your Energy 夢ある明日を

 OSAKA GAS

セグメント別見通し

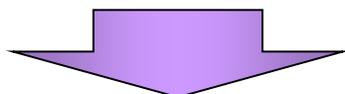
単位:億円	売上高		セグメント利益 ^(*)		備考
	13.3期 見通し	12.3期 実績	13.3期 見通し	12.3期 実績	
ガス	10,250	9,765	385	209	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,245	1,980	350	324	売上:LNG販売増など 利益:LNG販売利益増など
海外エネルギー	105	111	65	86	持分法投資利益減 (北海油田、スペインIPP)
環境・非エネルギー	1,810	1,845	170	185	売上:不動産事業売上減など 利益:ケミカル事業利益減など
消去または全社	-680	-755	22	22	
連結	13,730	12,947	992	829	

(*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

家庭用ガス販売

13.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.3%	
気温影響	-2.5%	平均気温23.5度(対前期+0.2度)
その他	-0.3%	
合計	-2.5%	



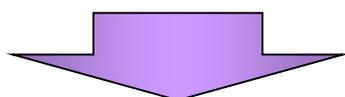
13.3期通期見通し

- 上期は、当初見通しを3百万m³下回った。
- 下期は、当初見通し通りで想定。
- 通期では、当初見通しを3百万m³下回り、対前期42百万m³減の2,229百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

13.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.0%	
気温影響など	-2.3%	6月下旬の低気温による冷房需要の減少
その他	-3.7%	お客様の省エネルギー推進等の影響
合計	-4.0%	



13.3期通期見通し

- 上期は、当初見通しを10百万m³下回った。
- 下期も、当初見通しを5百万m³下回ると想定。
- 通期では、当初見通しを15百万m³下回り、対前期77百万m³減の1,497百万m³と想定。

工業用ガス販売

13.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.6%	他燃料からのガス転換など
稼働増減 など	-2.9%	お客さま設備の 稼働減少など
合計	-0.3%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	195	111.4%
金属	529	99.6%
ガラス	170	99.5%
食品	261	101.2%
化学	590	101.6%

13.3期通期見通し

- 上期は当初の見通しを27百万m³下回った。
- 下期も、上期実績を踏まえた下ぶれ(-55百万m³)を織り込み、通期では、当初の見通しを82百万m³下回り、対前期34百万m³減の4,322百万m³と想定。

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気温・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度下期の粗利益は8億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度下期の粗利益は13億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間6億円変動する可能性がある。